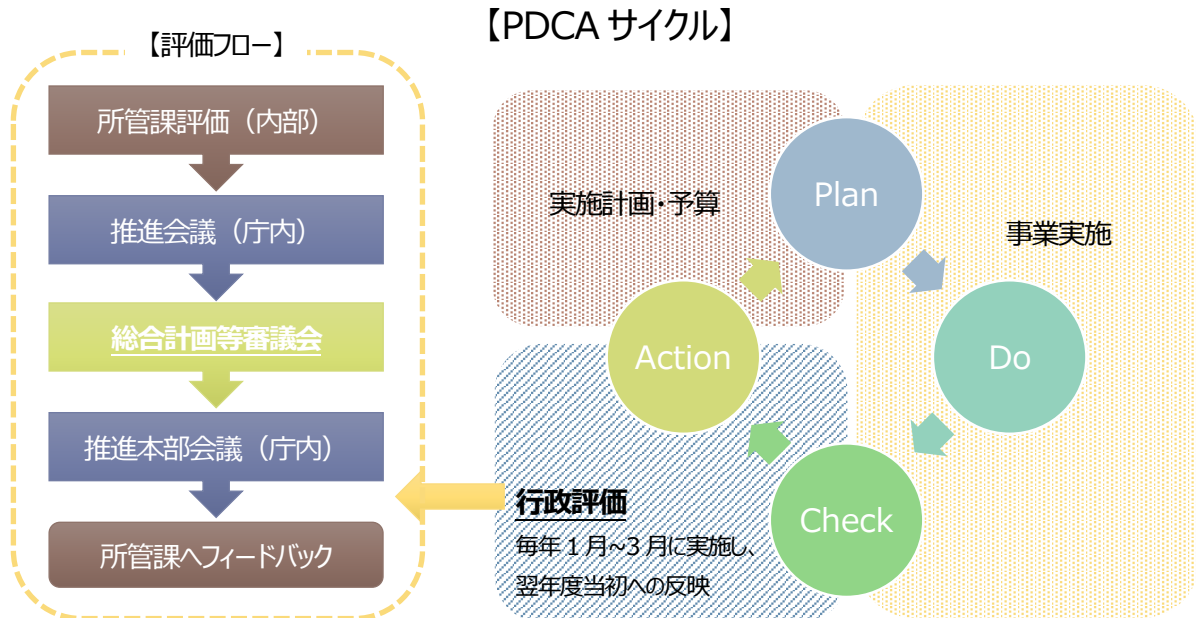


令和 5 年度行政評価の総括について

1 趣 旨

- 令和 3 年 4 月にスタートした第 6 次基本構想・第 1 期基本計画、第 2 期キラと輝く創生総合戦略（以下「基本計画等」という。）を着実に推進するため、毎年度行政評価を実施。



- ・基本計画等の策定段階から、ロジックモデル（目指す状態とそのための手段を整理）を作成し、成果指標（数値目標・KPI・KSF）を設定することで、その進捗状況を適時確認できるよう設計。

2 評価方法

- ①「令和 5 年度の評価（単年度評価）」、②「令和 3～5 年度の評価（複数年評価）」を実施。【評価対象：基本施策 131 本（基本計画 119 本、総合戦略 12 本）】
- 評価フロー：所管課評価⇒推進会議⇒（現在）**総合計画等審議会**
- 基本施策の達成のため実施する取組の進捗状況を 3 段階評価し、その合計点により基本施策を 5 段階で評価。

【取組の評価区分】 ※具体的な取組の進捗状況により、取組ごとに 3 段階（A～C）評価

- A： 予定を上回り、順調に進捗している。
B： 予定のとおりに進捗している。
C： 進捗に遅れが出ている。

【基本施策の評価区分】 ※取組評価の合計点により、基本施策を 5 段階（5～1）評価

- 5： 大きく進展している。
4： 順調である。
3： 概ね順調である。
2： 多少遅れが出ている。
1： 大幅に遅れが出ている。

3 令和5年度の評価（単年度評価）

【1】令和5年度の評価結果一覧（分野別）

分野	分野名	評価区分 ※1					総計	令和5年度	令和4年度	令和3年度
		1	2	3	4	5		分野別 平均評価点	分野別 平均評価点	分野別 平均評価点
分野1	子ども・子育て支援			3	1		4	3.3	3.5	3.0
分野2	子ども・若者支援			1		1	2	4.0	4.0	3.0
分野3	学校教育			4			4	3.0	3.3	3.3
分野4	地域福祉			1	1	1	3	4.0	4.0	3.3
分野5	高齢者福祉			5	3		8	3.4	3.4	2.8
分野6	障がい福祉			2	3	1	6	3.8	4.0	3.8
分野7	健康づくり			2	4		6	3.7	3.3	3.0
分野8	スポーツ				5	2	7	4.3	4.0	3.1
分野9	文化芸術・文化財			2	3	1	6	3.8	3.5	3.0
分野10	生涯学習			3	1		4	3.3	3.0	2.3
分野11	人権・男女共同参画			1	1		2	3.5	3.0	4.0
分野12	地域コミュニティ			3			3	3.0	2.7	2.3
分野13	多文化共生・国際交流			1	2		3	3.7	3.3	3.0
分野14	防犯・交通安全			5			5	3.0	3.0	2.8
分野15	市民相談・消費生活			2			2	3.0	3.0	3.0
分野16	土地利用			3			3	3.0	3.0	3.0
分野17	道路	1			1		2	2.5	2.5	2.5
分野18	治水			2			2	3.0	3.0	3.0
分野19	水道			4			4	3.0	3.0	3.0
分野20	下水道		2	1			3	2.3	2.3	2.3
分野21	公共交通			1	1		2	3.5	3.0	2.5
分野22	環境			2	3	1	6	3.8	3.5	3.2
分野23	公園・緑		1	2	2		5	3.2	3.0	2.8
分野24	住環境			4			4	3.0	3.3	2.3
分野25	商工			5	1		6	3.2	3.3	3.0
分野26	農業			1	3		4	3.8	3.3	3.8
分野27	就労			2			2	3.0	3.5	3.0
分野28	シティプロモーション				2		2	4.0	3.5	3.0
分野29	危機管理			2	1	3	6	4.2	4.0	3.2
分野30	総合行政			2	1		3	3.3	3.0	3.3
総合戦略		※2	1	10	1		12	3.0	3.0	3.0
総計		1	4	76	40	10	131	3.4	3.3	3.0

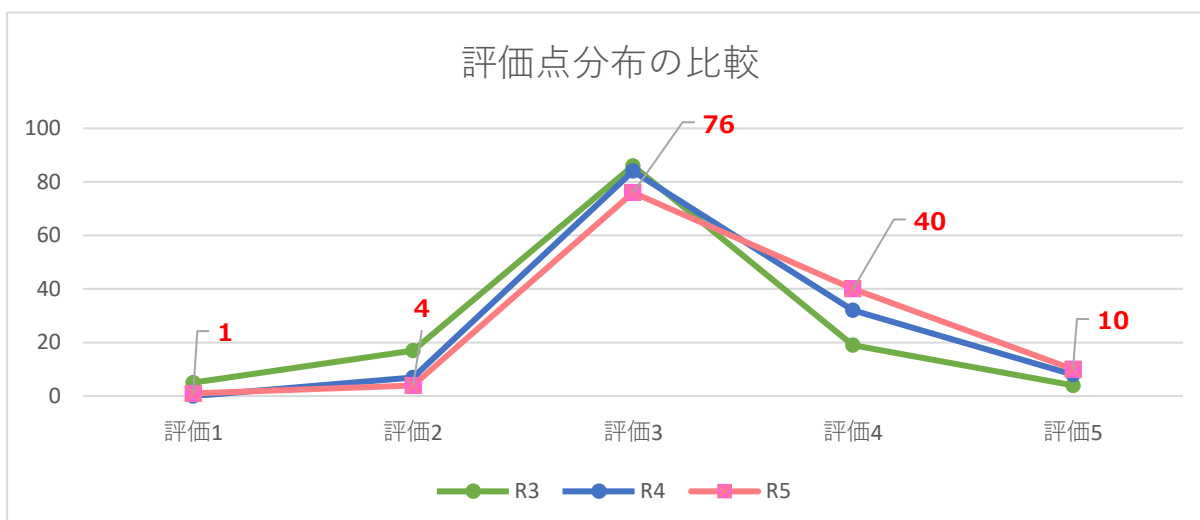
※1【評価区分】(再掲)

5：大きく進展している。4：順調である。3：概ね順調である。2：多少遅れが出ている。1：大幅に遅れが出ている。

※2【「実りある暮らし」、「充たされたつながり」、「恵まれた生活環境」、「成長の継続」】

第6次基本構想に定める理想の“未来”「充実した日々」を構成する要素として整理したもの。計画冊子 P9 参照

【2】 令和5年度の評価点の分布



	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	平均評価点
令和3年度	5	17	86	19	4	3.0
令和4年度	0	7	84	32	8	3.3
令和5年度	1	4	76	40	10	3.4
増減 (R4→R5)	+1	△3	△8	+8	+2	+0.1

- ・評価点分布は前年度より改善した。(全体平均評価点 昨年度 3.3⇒今年度 3.4)
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、コロナ前に近い規模・回数での事業展開が可能となったことから、KSF（主にアウトプット）などの数値が向上したものが多く、全体の評価が改善した。

【評価が高かった分野】

- ・分野別平均評価点が4.0以上となったものが5分野（分野2 子ども・若者支援、分野4 地域福祉、分野8 スポーツ、分野28 シティプロモーション、分野29 危機管理）となった。

○評価が高かった分野の進捗理由（上位2分野）

・分野8 スポーツ

車いすハンドボールやボッチャ等、障がい者スポーツに触れる機会の増加や、一流スポーツ選手を招いたレスリングやハンドボール教室を開催するなど、コロナ以前に比べて事業内容を充実することができたため

・分野29 危機管理

防災リーダーの養成が進んだことや、防災備蓄に関する意識啓発の機会の増加、富士見市総合防災訓練の実施など、自助・共助・公助の観点が全体的に進捗したため

【評価が低かった分野】

- ・全体としては、分野別平均評価点が3.0を下回ったものが2分野（分野17 道路、分野20 下水道）となっている。また、この2分野については、3年連続で分野別平均評価点が3.0を下回っている状況である。

○評価が低かったものの遅延理由

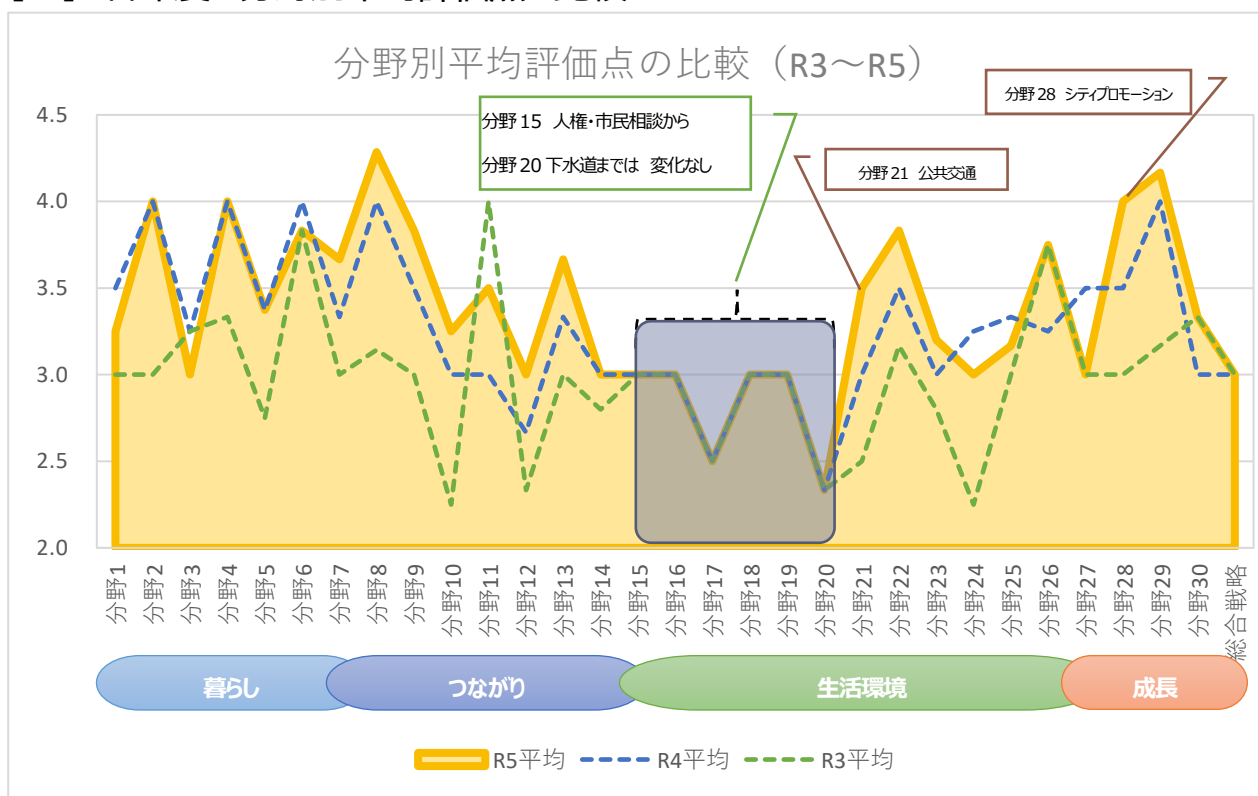
・分野17 道路

幹線道路の整備について、継続して地権者との交渉が進められているものの、市道の整備が完了した実績がなかったため。

・分野20 下水道

公共下水の普及に向けた管渠整備について、既存の雨水ポンプ吐出量の増強の効果及び新たな雨水ポンプ場整備等を踏まえた検討を行う必要があることから、整備が進捗していないため。

【3】各年度の分野別平均評価点の比較



○このグラフのねらい

- ・分野ごとに、R3～5各年度の評価点を比較分析する

○比較結果

- ・一部で昨年度を下回る分野（分野1 子ども・子育て支援、分野3 学校教育、分野6 障がい福祉、分野24 住環境、分野25 商工、分野27 就労）はあるものの、全体の45%にあたる14分野は、昨年度より結果が向上し、残りの11分野は維持となった。
- ・分野15 市民相談・消費生活から分野20 下水道までは3年間の評価に動きがなかった。
- ・全体的に「つながり」・「成長」分野において、改善傾向が強く、「暮らし」・「生活環境」分野においては昨年同様の結果となっている。

○昨年度より大きく評価点が上がった分野 ※昨年度より0.5以上改善

○昨年度より大きく評価点が上がった分野の理由

・分野21 公共交通

駐車場施設の充実について、鉄道事業者との協議を行い、鶴瀬駅東口土地区画整理地内に自転車駐車場の新設について協力を得られたため。

・分野28 シティプロモーション

インナープロモーションの推進について、「ポスター・チラシ作成のガイドライン」を作成するなど、効果的な情報発信に向けた下地が整い、「市に愛着を持っている人」の割合が上昇するなどのアウトカムが得られたため。

分野 No	分野名	R5 分野別平均評価点	R4 分野別平均評価点	差
分野21	公共交通	3.5	3.0	0.5
分野28	シティプロモーション	4.0	3.5	0.5

【4】 前回の審議会で審議した課題への対応

- 令和4年度行政評価で得られた3つの課題に対し、前回の審議会で審議いただいた内容について、令和5年5月に各課にフィードバックを実施。
- その後の取組み状況についてフォローアップした結果、下記のような成果が得られた。

【課題1】 市の取組や情報配信媒体についての認知度が高まらない

取り組んだこと	成果
1 子育て応援モバイルサイト「スマイルなび」	
▶令和5年4月より、母子手帳アプリ『富士見すくすくナビ』にリニューアル	○登録者数（既存ユーザーの移行含む） 1,266名が登録（R5.12末時点）
2 市民人材バンク	
▶推進員の会と協働でモデル事業を実施（忍者体験教室・ボードゲーム体験教室など） ▶推進員によるフェイスブック等での周知活動	○依頼件数の増加 R4：138件 →R5：211件（R6.3.1現在）
3 農業者向け補助金	
▶広報・ホームページによる周知のほか、認定農業者や農家組合長あて、JAいるま野等農業関係団体あてに周知活動を実施	○予算執行率の向上 認定農業者等チャレンジ支援事業補助金 98% 農業用機械購入支援事業補助金 99% など
4 防災ガイドブック	
▶配布や周知の強化 各種防災講座や総合防災訓練での配布を実施	○防災ガイドブック認知率の向上 R5：92.8%
5 その他 市ホームページ	
▶リニューアルに伴う、AIチャットボット機能、SNSによるプッシュ通知機能の搭載	※R6.1.25リニューアルのため効果は今後検証

【課題2】 市内で活動している団体や会員の担い手不足

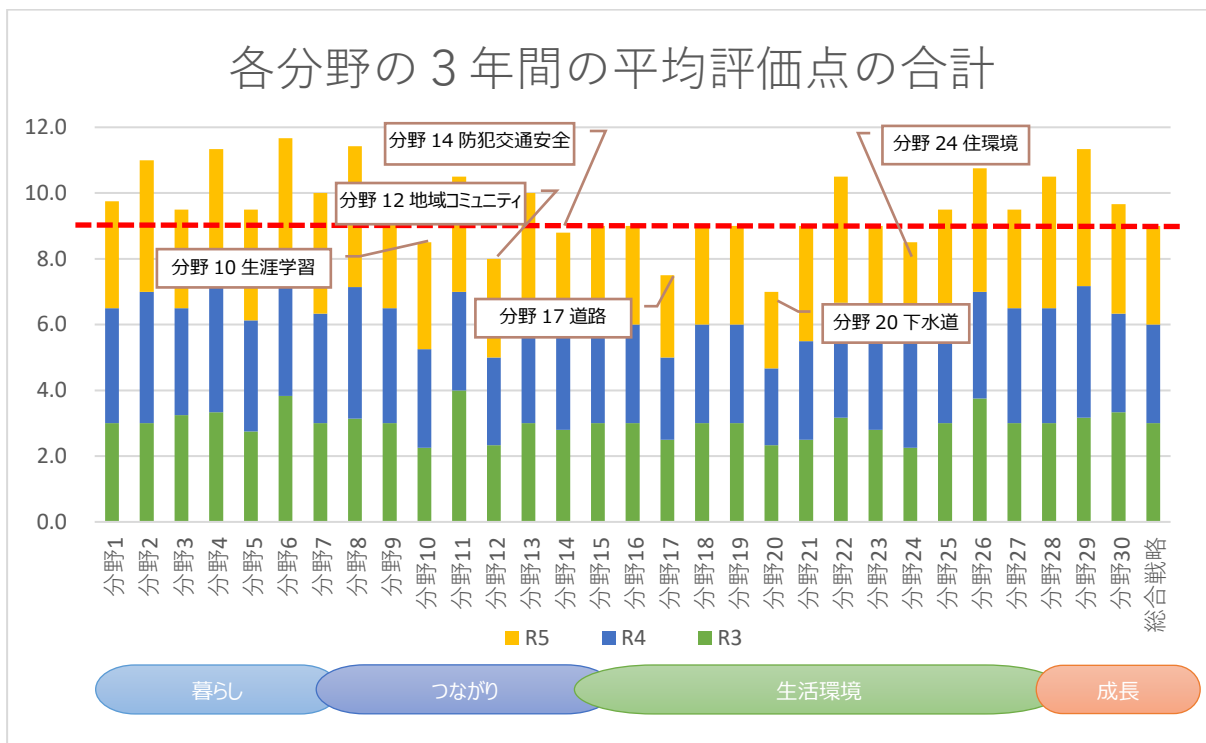
取り組んだこと	成果
1 ファミリーサポートセンター会員の確保	
▶基礎講座の開催（R5.6.7）	○提供会員登録実績の増加 R4：44人 → R5：51人
2 食生活改善推進員の会員獲得	
▶ヘルスマイト養成講座の実施（9～12月 計6回）	○新規会員の獲得 R5：13人

【課題3】 市の事業に対する参加率（利用率）が高まらない

取り組んだこと	成果
1 英検補助	
▶対象の拡充 小6・中3のみ → 中1・2年生を追加 ▶周知の工夫 学校掲示用ポスター、都市宣言塔電光掲示板	○申請者数の増加（小・中合算） R4：44件（R5.1.6時点） R5：182件（R5.12.28時点）
2 ポツチャ体験教室	
▶WEB申込みの導入	○利便性の向上 WEB申込み利用率 92.3%（84件/91件）

4 令和3～5年度の評価（複数年評価）

【1】分野ごとの3年間の進捗



○このグラフのねらい

・分野ごとに、R3～R5の3年間で、どの分野でどれだけ進捗しているかを分析

※ 3年間の合計評価点が赤いラインの9.0(平均3.0×3年間)を超えていた場合、おおむね順調に進捗していると捉えることができる。

○分析結果

・3年間の合計が9.0を下回ったのは、6分野（分野10 生涯学習、分野12 地域コミュニティ、分野14 防犯・交通安全、分野17 道路、分野20 下水道、分野24 住環境）となり、前年度と比較して2分野（分野21 公共交通、分野23 公園・緑）が減少した。

・「暮らし」、「成長」分野では進捗しているものの、「つながり」、「生活環境」分野において遅れが生じている傾向となる。

参考：3年間の合計が9点に届いていない分野

分野 No	分野名	R5 分野別 平均評価点	R4 分野別 平均評価点	R3 分野別 平均評価点	合計
分野 10	生涯学習	3.3	3.0	2.3	8.5
分野 12	地域コミュニティ	3.0	2.7	2.3	8.0
分野 14	防犯・交通安全	3.0	3.0	2.8	8.8
分野 17	道路	2.5	2.5	2.5	7.5
分野 20	下水道	2.3	2.3	2.3	7.0
分野 24	住環境	3.0	3.3	2.3	8.5

【2】【1】での分析及び所管課における中間評価を踏まえて

令和5年度で第1期基本計画の折り返し地点を経過したことから、この間の効果を把握することを目的として、行政評価シート内に令和3～5年度の効果（アウトカム）欄を追加し、各課において中間評価を実施した。

第1期基本計画期間内においては、この間、新型コロナウイルス感染症による多くの影響を受けた。想定どおりに事業が進捗しない状況や、既存手法からの変化が求められる中、各施策において、以下のような3つの傾向があることがわかった。

■新型コロナウイルス感染症拡大を起因とする3つの傾向

- (1) 事業の縮小や中止 → 5類移行に伴う「**事業の再開**」
- (2) 行動や活動の制限 → 「**つながりの回復、連携の強化**」
- (3) 感染症対策 → 「**新たな生活様式・DX化への対応**」

また、これらの傾向分類に基づき、事務局における【1】での分析結果と所管課における中間評価を踏まえ、全体分析を行ったところ、以下のような状況が明らかとなった。

○全体分析の結果により明らかとなった状況

(1) 事業の再開（17/30分野で記載）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業の縮小や中止が相次ぐ中、これまで実施方法を工夫しながら対応してきた。また、5類移行後においては、131施策のうち、事業の再開等によりコロナ以前の水準までKPIが回復している施策が56施策あり、基本構想に定める“理想”の未来の実現に向け、再び歩みを進めていることができていると考えられる。一方で、指標の最新値が計画策定時点の現状値を下回っている施策も29施策あり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が解消されていない施策があることがわかった。

（残りの46施策は、KPIの計画策定時点の現状値や、計画策定以後の数値が取得できていない施策等）

なお、KPIの進捗状況により、以下のような要因があるものと考えられる。

KPIの状態	要因
コロナ以前の水準までKPIが回復している	<ul style="list-style-type: none">・的確な施策の展開ができている・コロナの影響を（あまり）受けなかった・コロナ前と同様のニーズがあると考えられる・社会情勢の変化によりニーズが増加した など
最新値が計画策定時点の現状値を下回っている	<ul style="list-style-type: none">・施策の展開が充分でない・施策は展開できているが効果が得られていない・コロナの影響がまだ残っている・コロナの感染拡大を機にニーズが減少した など

(2) つながりの回復、連携の強化 (23/30 分野で記載)

コロナ禍における活動の制限がある中でも、事業の更なる推進のため、関係機関との連携を深めるとともに、新たな大学・企業とつながることで、外部の資源や知見の活用を進める体制が構築できた。

新たなつながり	N T T、日本薬科大学、跡見学園女子大学との包括協定、 (株)ロッテや民間救急事業者との個別協定 S D G s ワークショップにおける新たなステークホルダーの参画 など
連携の継続・強化	新たな自主防災組織の結成、セルビア共和国との姉妹都市交流の継続、 パルカフェとの連携によるフレイル予防事業の実施、 障がいをもつ当事者の方々のあいサポートフェスティバル等への参加 など

(3) 新たな生活様式や DX 化への対応 (14/30 分野で記載)

新たな生活様式への対応や、ポストコロナに向けた体制の整備、D X の推進に対し、様々な分野において、それぞれの事業に合った形で対応を模索し、実施した。

新たな取組	がん検診 W E B 予約システムの導入、電子図書館の導入、 公民館および交流センターへの Wi-Fi の設置 など
既存の取組における手法の見直し	生涯学習講座参加申し込みの電子化（応募フォームによる申し込み）、 就職支援セミナーのオンライン開催、職員採用試験の WEB 面接の実施、 市民相談及び女性相談におけるオンライン相談、 食育教室や郷土伝統芸能の映像配信 など

5 令和6年度の方向性

○今後の基本計画の推進に向けて

分析の結果、全体として行政評価結果（行政活動の成果）は向上しているものの、十分なアウトカムが得られていない・把握できていない施策もあり、あらためてニーズ、ロジック、指標等について検証を行い、第1期基本計画終了までに適切な効果を計測していくことが必要である。

第1期基本計画の残りの2年間（R6～7）においては、当該検証の結果をもとに最終的に十分な効果を得られるよう、現在の行政評価のスキームを活用しながら、修正点を明確にし、軌道修正を加えることで適切な事業実施につなげていく。

また、今回の検証の結果を、第2期基本計画におけるロジックモデルや指標の形成（見直し）に活用し、令和8年度に向けて策定を進めるものとする。

なお、第2期基本計画においては、庁舎建設など多額の事業費を要する事業が予定されていることから、不要な事業や役目を終えた事業等については、積極的にスクラップを行い、財源や人的資源の効率的・効果的な活用をさらに進めていくことが不可欠である。このため、当該スクラップの観点も重要な視点として取り入れ、第2期基本計画の策定を進めていくものとする。

<施策等の見直し・スクラップのイメージ>

